

## サッカーユースチーム所属の高校生における傷害発生状況について

○坂 亘平(さか こうへい) (PT)<sup>1)</sup>, 高路 陽人 (PT)<sup>1)</sup>, 高橋 洋介 (PT)<sup>2)</sup>, 三田 直樹 (PT)<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 医療法人 仁寿会 石川病院

<sup>2)</sup> ハーベスト医療福祉専門学校

<sup>3)</sup> 大室整形外科 脊椎・関節クリニック

### 【目的】

高校生年代は身体変化特性に加え、カテゴリーの変化に伴い練習量が急激に増加し傷害発生も増加することが予測される。そこで今回、サッカーユースチーム所属の高校生選手を対象に傷害発生状況を調査したので報告する。

### 【対象と方法】

2010年4月から2011年1月までに、サッカーユースチームに所属する高校生1,2年生18名を対象に傷害質問紙調査を実施した。調査は3カ月毎に実施し、調査期間に至るまでの傷害状況と調査期間中に発生した傷害状況を調査した。

### 【結果】

18名中12名が傷害を経験しており、過去の傷害総数は29件であった。調査期間での傷害総数は44件(1年生11件,2年生33件)であり、部位別では上肢1件(2年生1件),体幹11件(1年生6件,2年生5件),下肢32件(1年生5件,2年生27件)であった。チーム練習時間は2.5時間/日実施しており、選手によっては1時間程度の個人練習も実施していた。また、傷害受傷により最長180日の練習不参加期間が判明した。

### 【考察】

傷害はサッカー競技におけるキック動作やジャンプ動作などパフォーマンス低下にも繋がると考えられる。今回の調査により傷害を抱えながらプレーする選手が非常に多く存在することが判明した。成長による身体変化による影響とサッカー競技特性による影響が混在することで傷害が多く生じていることが考えられる。そのため、今後理学療法士やトレーナーが傷害予防としてチームに関わることに大きな意義があるのではないかと考える。